



この地域とともに (病室から塩釜港を望む)

厚生協会だより

2013年1月21日
第 317 号

発 行
(公財) 宮城厚生協会

〒985-0835
宮城県多賀城市下馬
二丁目13番7号
TEL 022-361-1113
FAX 022-361-1124
発行人：長 澤 清 光



年頭のごあいさつ

暗雲ふり払い 日本の未来かけた運動をともに

公益財団法人宮城厚生協会理事長 水戸部秀利



宮城厚生協会は、震災で長町病院附属クリニックを失うなど甚大な損失をこうむりましたが、昨年12月には長町病院新築の起工式にたどり着きました。

さらに本年1月4日から、念願の「公益」財団法人としてスタートすることができました。改めて、全職員・共同組織の奮闘と全日本医連の支援に感謝します。

● 最後の抛り所として ●

1950年、宮城厚生協会設立時の趣意書の冒頭に、「医療事業は、社会の各人が健康であって、明るい生活を、その職場において家庭において営むことができるようにする、いわば明日の労働を楽しくできることに仕向ける公益的・性格を持つ組織活動であって、国民一般の福祉増進こそ唯一の目標とするものである。」と明記されています。

その後の諸先輩の60年余の地道な活動の積み重ねが、法的にも社会的にも、趣意書に沿う形で認知されたことを意味します。今後、「公益」事業体としての社会的責任をさらに果たすことが求められます。

これは決して特別なことではなく、最後の抛り所として、今までのように地域に根ざした民医連活動を一層深化させることを意味します。

公益財団法人の初年度です。全職員心を引き締めて踏み出しましょう。

● 「砂上の楼閣政権」 ●

一方、社会情勢は、決別したはずの自公政権が、昨年末の解散総選挙で亡霊のように復活しています。しかも、平然と改憲・国防軍を語る靖国派の復活です。変質・自壊した民主党政権は消費税増税の置き土産まで残していきました。

迎春





「公益財団法人」 スタート

副専務理事 平賀 秀法

2013年1月4日 宮城厚生協会は「公益財団法人」としてスタートしました。

財団法人宮城厚生協会は、2006年に公益法人制度改革関連3法案が成立したことで、自動的に民法34条法人から特例民法法人へ移行していました。

この特例民法法人は、2013年11月までに新たな法人格を取得しないと自動的に解散となります。このことを受け、法人制度改革に対応する準備を進めてきましたが、私たち民医連の医療と介護の実績、そして共同組織との地域活動の積み重ねは公益目的事業に相応しいと、宮城県公益認定等委員会で判断されました。

財務の見直しとしての退職金の引き下げ、協会債・基金の見直し等、職員をはじめ地域の皆様のご理解のもと困難な課題をクリアできたことに感謝申し上げます。

新たな前進のため、心ひとつに、より一層の公益性をめざし事業活動に取り組む決意です。

歴史は一本道では進まないとはわかっていても、厳しい揺り戻しです。

この政権は3年前の政権交代を実現した国民の力が選んだ道ではなく、その力が行き場を失う中で、小選挙区制という歪んだ制度の中で生まれた、いわば「砂上の楼閣政権」です。脆弱な政権とはいえず、米

に粘り強くその作業にとりかかる年です。

● 私たちのモラル ●

昨年10月、みやぎ憲法九条の会主催の集会で、作家大江健三郎氏の「本質的なモラルとは」をテーマにした講演がありました。予想したほど難解な話ではなく、「次の世代が生きる社会・世界をこわさないこと」が今に生きる私たちの「本質的なモラル」であるということをお話していただきました。

太平洋戦争の惨劇から私た

ちは二度と同じ過ちを繰り返さない憲法9条で世界に誓いました。福島原発事故の惨状を前に私たちは、原発とは共存できないことを学びました。これらをしつかり次世代に伝えることが、私たちのモラルです。新政権はこの本質的なモラルを根底から覆そうとしています。

今年は、日本の未来をかけた運動の元年です。一緒に暗雲をふり払うために取り組んでいきましょう。

新長町病院建設の到達

地域の期待に 応えられる

存在をめざします

長町病院事務長 大山 泰人



2012年12月19日、新病院建設の地鎮祭が執り行われ、いよいよ工事着工となりました。4月の病院近代化施設整備資金申請から7か月、長く待機の印象もありますが計画から大きな乖離はありません。

心配された工事入札も概ね基準額の範囲で無事終了し業者確定しました。

新病院建設のコンセプト

一昨年の震災を経験し、学校や公共施設と並び「病院」の存在は、地域住民にとってランドマークとして拠り所となることを痛感しました。

例え「医療機能の分化と連携」が進み果たす役割が変化しても、何かのときは「やっぱり長町病院」と、地域の期待に応えられる存在をめざし、その拠点作りを心がけました。

設計基本方針では、防災の観点は勿論ですが、地域の自然環境を生かした機械に頼らない施設計画、自然採光や自然換気、エコロジーで省エネルギーを意識した空調計画、健康的で明るいインテリア計画、開放的で癒しの空間となることを意識しました。

また、シンプルで分かりやすいゾーニングで、感染防止や事故防止につながる配置計

画、患者導線とスタッフ導線を分離しスムーズな避難等も考慮する計画としました。

新病院の機能と特徴

新長町病院は、地下階を持たない現状と同じ5階建て構造で診療機能に限定して移設する計画です。

敷地面積が現病院1,088㎡から2,166㎡となり、延床では5,416㎡から6,578㎡となります。

建物はセツトバックする関係からこれまでのクリニックより面積は若干小さいです。

正面玄関(現病院向い)には車寄せを、西側道路(つばさ薬局側)には歩道スペース確保を、東側道路(旧2番街側)は4m道路確保など周辺地域にも配慮し設計しました。

外来環境は、震災前クリニック1階と2階、現病院1階の3つのフロアから構成されていましたが、ワンフロアに集約され患者動線や職員動線が改善されました。何よりも、震災後の劣悪な診療環境が大きく改善されます。

入院環境では、病床数が現病院150床から135床

(現稼働)へ削減されますが、結果としては稼働を変えずに広くゆったりした療養環境を整備することができました。

二つの回復期リハ病棟では病棟内に120㎡の機能訓練室と言語聴覚訓練室(各4室)も確保しました。さらには各病棟デイルームを現在面積から倍以上の90㎡を確保しました。

新たな介護事業展開へ

新病院完成(2014年1月頃)診療機能を移転した後、現在の病院を後方事務機能(管理部及び総務課、医局など)が1,2階へ、3,4階を「有料老人ホーム」へ転換、5階を通所事業・運動増進施設へ転換します。

特に、「有料老人ホーム」事業は厚生協会では初めての事業展開となります。療養病床削減で医療区分1患者が行き場を失い、「格差と貧困」の深刻化の中で、低所得で一定の医療・介護を必要とする高齢者が安心して暮らせる場所の確保が求められています。

同時に病院機能の効率的な

病床運用と在宅のバックアップのための居住系サービスの展開が喫緊の課題です。

したがって、入居料金はできるだけ低料金とし、家賃+管理費+食費+医療・介護サービスの自己負担分12万円程度をめざすこととし、そのために改修工事を最低限に抑え居室の造作は可能な限り簡素化し、居室ごとのトイレや洗面、流し台、物入れなどは設置しない方向で改修案を作成します。(生活保護の住宅扶助で入居可能な料金を考慮します)昨年12月から院内検討プロジェクトがスタートしました。



地鎮祭



長町新病院完成予想図外観

今年で開設18年目！ 続けてこれたのは訪問看護・介護の魅力

訪問看護ステーションあゆみ
ヘルパーステーションあゆみ

所長 伊藤久美子



平成4年訪問看護ステーションの制度が発足してから20年（昨年）を迎えました。全国の訪問看護ステーション第1号は宮城県旧三本木町の看護協会立大崎訪問看護ステーションでした。その3年後の平成7年5月に宮城厚生協会第1号としてあゆみの前身の小金町訪問看護ステーションが誕生しました。あれから18年。私自身所長になって18年目を迎え、訪問看護と訪問介護との二足のわらじを履いています。そしてその時の流れの速さにただただ驚いています。

こんなに長くこの仕事が続けてこれた理由は訪問看護・介護の魅力です。

その魅力の一つ目は、慢性心不全がありながら百歳を過ぎても一人で生活を送っている方や、知的障害があり寝たきりの母親の介護は無理と思われたが、1年以上穏やかに介護を続けている娘さんなど、私たちが利用者さんやご家族から教えられる事が沢山あります。

二つ目は、ケースを通してケアマネジャーさん、他のサビ事業者の皆さん、近所の皆さんとその輪が広がり、地域の中で顔見知りの方々が増えその人たちが、私たちを必要としてくれる事です。

今年も新しい年を迎えました。これから人との関わりを大切にしたい仕事をしていきたいと思っています。

抱負

「笑門来福」・・・笑顔で幸せに

中新田訪問看護ステーション
なかにいださつきヘルパーステーション

所長 早坂菜穂子



2013年。新しい一年が始まりました。私は、所長となつて早3年目に入りました。何も分らないところからの出発でしたが、職場のみんな、周囲の方々に支えられながら、何とかここまで頑張つてこれました。今年は、私がみんなを支え、笑顔の絶えない活気溢れる職場にしていきたいなあと思っています。

冬の訪問業務は、天候との戦いです。事業所のある加美郡は、自然豊かなのんびりとした地域。春から秋にかけては、車での移動時間はちよつとしたドライブ気分を味わえます。しかし冬になると一変。気合を入れて車を走らせる私達に、雪、それも吹雪が立ちはだかります。誰もが1シーズンで2〜3回は、見渡す限り真っ白な世界に入りこみ、どこが道路なのか分からず、恐怖の運転体験をします。それでも、訪問を応待ちにしてくださっている利用者のために頑張つて訪問しています。一日の業務が無事終わると安堵する毎日が3月頃まで続きます。どうか今シーズンにはあまり荒れませぬように...

最後に、私の好きな言葉を紹介します。「一期一会」と「笑顔」です。仕事を通じて今まで沢山の方、笑顔に出会ってきました。訪問業務は利用者（患者）の生活の場に入っていくため、利用者のみならず、家族、親戚、隣人、ペットなど多くの方（動物）と関わることになります。出会えた縁、一期一会を大事に育てながら、住み慣れた我が家で「自分らしく」最期まで過ごせるように、私達の笑顔で日常生活に彩りを添えてあげられるように、日々、自分自身が輝いていたいと思います。『笑門来福』いっぱい笑つていっぱい幸せになりたいですよ。さあ、みなさん。準備はいいですか。今日も一日最高の笑顔で...ニコッ！

一人一人の利用者を大切に

南光台訪問看護ステーション

所長 中村ゆき子



2002年開設し、今年で12年目を迎えます。

泉訪問看護ステーションから分離する形で、3名の看護師で始まり、現在はいはりハスタッフ・事務も含め10名が従事しています。

利用者は18名で、南光台周辺の利用者よりも遠方に多く行っていたように思います。

元来の方向音痴で、利用者宅から戻れなくなってしまった事もありました。

現在は約60名の利用者を訪問していますが、地域の特徴から、近隣の病院・医院や地域のケアマネジャーからの依頼が約80%になっています。

また、地域包括支援センターが隣接し、要支援の利用者が多いのも特徴のひとつかと思っています。

在宅でのケアは高齢化と重症化で、癌以外のターミナルの利用者が増えてきています。介護保険の限度内では十分なケアを受けられず、不安な思いで介護している家族もいます。

一人暮らし・老夫婦の二人暮らし等の利用者が多く、訪問看護のケアだけでは問題解決にならないことが沢山あります。

介護・医療制度と利用者の持つ背景を理解し、一人一人の利用者に寄り添って、安心して在宅生活が続けられるように支援していきたいと思っています。

今年

心身の丈夫さ、

しなやかさが無いと夢は叶わない

長町訪問看護ステーションほへみ
ながまちヘルパーステーション

所長 板橋 静子

長町病院から3・11震災のあった2011年8月に訪問看護STに転勤しましたが、色々な方面で勉強不足を実感し反省の毎日です。しかし、さすが介護事業部本部は勉強不足を見抜いていたのだでしょう。就任前に2ヶ所の系列事業所研修。更に地協の介護事業管理者養成研修会の参加命令を頂き、非常に充実した実践的な研修を受ける事が出来ました。事業所、県連を超えたネットワークも出来ました。在宅分野は今後更に対応が多方面に渡り、対応に苦慮します。が医療と在宅を結ぶキーパーソンの役割と自負し、スタッフ全員で頑張っていきたいと思っています。

「社会人、専門職として学習、成長する事は大事。その為に心身の頑丈さ、しなやかさが無いと夢は叶わない」…毎年思う言葉です。入職と共に共済のバレーボール全国大会が始まり、全国の仲間と交流。貴重な財産となっています。参加保障して頂いた皆様に感謝です。事業所、年齢を超え仲間ができ、辛い時も大会参加を目標に乗り越えられてきました。皆さん、毎日忙しく働かざるを得ない状況でしうが、若い頃から趣味はコソコソと継続することを中先輩としてお勧めします。きつと何十年後に納得して頂けるとおもいます。

この原稿準備中に、仕事、バレー仲間である鈴木剛さんが急死された事を知り、非常にびっくりし信じがたい、切ない思いで一杯です。42歳の若すぎるお別れでした。

この場をおかりし、3位に入賞した時の監督写真を載せ、ご冥福をお祈りします。



前列左から3人目が板橋静子さん
後列右が故 鈴木剛さん



南三陸さんさん商店街

坂総合病院医局 千葉 茂樹

新年あけましておめでとうございます！初期研修医の千葉茂樹です。2年間の初期研修もうすぐ終わろうとしています、今年も宮城厚生協会で頑張っていこうと思います。

今回、私の実家である南三陸町（旧志津川町）の「南三陸さんさん商店街」について紹介させていただきます。

●「千葉海苔店」

私の父の実家は旧志津川町で「千葉海苔店」という、海苔を中心とした海産物を扱う店を経営していました。小さな町の小さなお店でしたが、お客様は近所の方から全国各地にいたるまで、多くの方に支えられ経営していました。塩釜には海苔の中央卸売市場があり、海苔の卸しの手伝いなどでよく来ていました。



ちばのり店

●すべてを失った町のため住民のため

一昨年の大震災により、南三陸町は町の中心部はほぼ壊滅という被害を受け、私の実家や海苔屋、工場すべてが流出しました。幸いにも人的な被害はありませんでしたが、家は土台しか残らず、工場には非常に重い海苔加工の機械が一台だけ取り残されており、町のあちこちに当店の商品包装フィルムが散らばっていた光景が思い出されます。店の経営をしている叔母たちは還暦を迎え、すべての財を失った状況で再び店を始めるのは困難だ、と様々な人から言われたようでした。実際、家族としても再開は不可能だと考えましたが、すべてを失った町のため、住民のために少しでも希望を与えることをしたい、との思いで叔母たちは震災間もない頃から奮闘しました。これ以上無理はするなと思う気持ちの一方で、何とか頑張って町の人たちに希望を与えてほしい、とも願っていました。

●強い輝き放つ

震災直後に、私がNPOによるインターネットの安否掲示板に千葉海苔店の書き込みをしたところ、私の知らない店に関係のある方から、安否確認の他に店の支援をしたい、という連絡が各地からばらばらと入りました。全国からの支援が入り始めて、叔母たちの奮闘が報われ、震災後の夏に何とか店を再開できました。はじめ海苔の加工は他店に完全に依頼し、商品もわずかな種類しか作れませんでした。何もなくなった志津川の町に、うちの海苔屋だけがプレハブ小屋を建て店を再開した光景は、夏の暑さの中強い輝きを放っていたの覚えています。

●「なつかしい未来」へ

その後、町では南三陸復興市などを繰り返すようになり、徐々に他のお店も再開し始めました。南三陸復興市は現在は「南三陸さんさん商店街」と姿を変え継続されています。

先日、年末休みの際に初めてさんさん商店街に行ってみました。昔なじみの店が集まり店を開いている光景は、まだ町自体はただの更地ではありますが、新しい町のかたち、町の希望のように感じられました。商店街は徐々に店舗の数も増えてきているようです。JR代行バスの発着駅もつくられ、仮初めの姿ではありますが、南三陸町の「なつかしい未来」へ一歩近付いているようでした。



南三陸さんさん商店街

●ぜひ、足を運んでください！

最後に、宣伝になりますが、南三陸町にお立ち寄りの際は、ぜひ「南三陸さんさん商店街」に足を運んでください！自信を持った品を提供させていただきます。それと、復興への希望を込め再開させた千葉海苔店のプレハブ小屋も、未だ震災前に店のあった町役場近くに建っていますので、もし足を運んでくださる方がいらっしゃれば幸いです。